

「研究テーマ」

## 学校設定科目「時事問題」における実践

兵庫県立氷上西高等学校

教諭 能地 敬典

### 1 NIE 導入の背景

本校は、兵庫県丹波市北部に位置する各学年1クラスの小規模高等学校で、平成24年度より、丹波市立青垣中学校及び氷上中学校と連携型中高一貫教育を導入している学校である。

小規模校としての特性を生かし、特色ある教育内容の実践を目指しており、そのような背景の中で、地歴公民科の学校設定科目として「時事問題」(高校2年生就職類型選択科目、2単位)を設置し、NIE推進事業による新聞配布が行われる1～2学期の間に月2回程度、新聞を使った授業を実践した。

なお、推進事業中の新聞置き場としては、昨年に引き続き、生徒の進路資料閲覧コーナーを利用した。

#### ■氷上西高校の歩み

～地域に支えられた「特色ある学校」に！

昭和23年10月	県立柏原高等学校佐治分校開設
昭和37年 4月	県立柏原高等学校青垣分校に改称
昭和51年 4月	県立氷上西高等学校として独立
昭和51年 6月	開校記念式典
昭和60年11月	創立10周年記念式典
平成 7年11月	創立20周年記念式典
平成17年11月	創立30周年記念式典
平成21年 4月	全学年1学級規模に
平成21年 4月	地域連携支援事業(～23年3月) 地域連携支援協議会(2か年で8回開催)
平成23年 1月	市教委「連携型中高一貫教育」発表
平成23年 3月	県教委「連携型中高一貫教育」発表
平成23年度	「連携型中高一貫教育」の試行
平成24年 4月	「連携型中高一貫教育校」に改編

〔図1 氷上西高校の歩み〕



〔図2 新制服による入学式の様子〕



〔図3 新聞置き場の様子〕

## 2 学校設定科目「時事問題」における実践

平成23年度は、NIE推進事業に基づく新聞配布（朝日・毎日・読売・日経・産経・神戸の各朝刊）が、5月～8月にかけて行われたこともあり、実践機会を1学期に設けた。

実践形式としては、各社の新聞を読み、自身が関心を持った記事を抜粋し、200字程度に要約して、報告するという形式を取った。実践は合計3回行い、選択者10名が全員発表を行った。実践を重ねるごとに、要約内容・報告形式ともに向上が見られ、プレゼンテーション能力の向上につながった。

その成果を踏まえ、平成24年度は、新聞の要約や報告のみに留まらず、その記事を使って集団討論を行うという企画を複数回実施した。集団討論を実施したテーマは、①東日本大震災の復興と阪神大震災との比較（6月実施）、②日本と諸外国の選挙制度の比較について（9月実施）である。

いずれのテーマも、今年度の選択者12名を3班に分け、それぞれのグループ内で意見集約を行ったあと、全体に向けて報告を行うという形式を採用した。ディベートに似たような形式を取ることは、より高度な知識理解が必要なため、生徒自身には事前の下調べなどでやや負担が増えた面もあったが、世の中の諸問題について討議するという機会を設けたことに関しては、年度末の授業アンケートでは、将来的に役に立つ企画だったと思うという前向きな意見が見られた。



〔図4 新聞要約の様子①〕



〔図5 新聞要約の様子②〕



〔図6 事前の下調べの様子〕



〔図 7 教員による要約指導の様子〕

- 2 事実を伝えるのは基礎基本。それだけでは読者を引きつけることはできない。
- 3 思いやる気持ちも伝える。心が通い合わないと新聞の未来はない。
- 4 お金儲けとしての仕事だけではない。使命感が人を動かすもの。
- 5 作文力と速く書く力が必要。(①取材力②筆力③企画力④語学力)

### 3 新聞記者派遣事業【朝日新聞神戸総局長による講演会（平成24年10月3日）】

本校が NIE 実践指定校の関係で、朝日新聞神戸総局長の橋本 聡氏に2年生の選択授業「時事問題」で新聞記者についての講演を依頼した。橋本氏は平成24年3月までロンドンで特派員として活躍されており、その頃の王室の話や神戸総局長としての話など、自身体験を交えた内容で、生徒たちも熱心にメモを取っていた。

また、この時期は2年生が取り組んであるインターンシップの時期に近いこともあって、新聞記者や新聞業界ということについても、興味・関心が持てたようであった。

<橋本氏の講演内容語録>

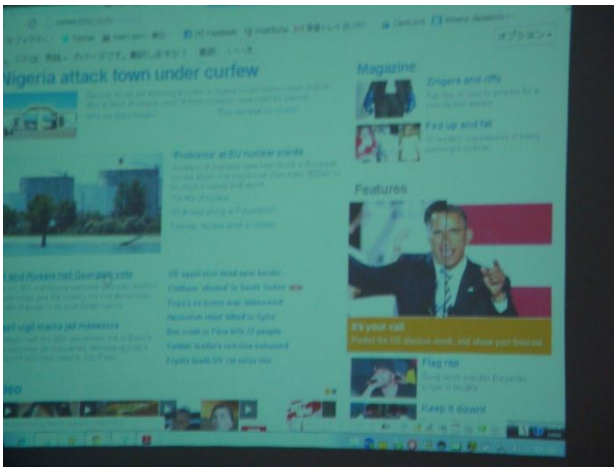
- 1 新聞は、なまものである。



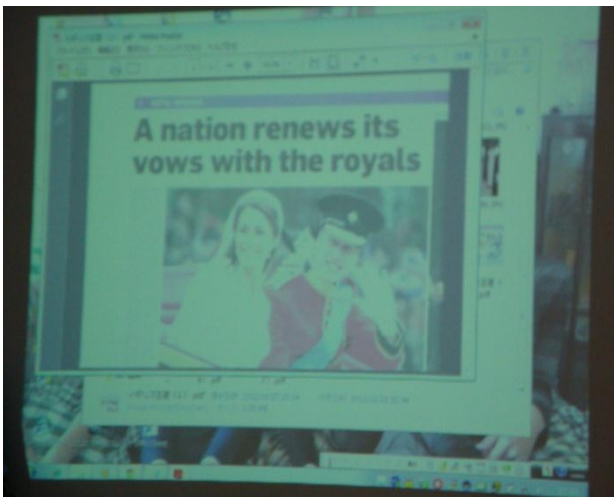
〔図 8 講演会の様子①〕



〔図 9 講演会の様子②〕



〔図 1 0 世界に起きているニュースが一目で分かるという BBC のホームページ①〕



〔図 1 1 世界に起きているニュースが一目で分かるという BBC のホームページ②〕

#### 4 まとめ (NIE 活動を通しての総評)

2年間の NIE 活動を通して一番感じたことは、この事業を行う前には、人前では話すことが苦手だった生徒たちが、自ら積極的に発言したりできるようになったことである。

当初は、新聞を活用した授業実践を行うことには、教材研究に対する負担感も大きく、

マイナス面を感じる機会も多かったが、生徒自身が正々堂々と人前で自分の意見を言えるようになっていく姿を見ていると、その負担感はいつの間にか消えていました。

生徒とともに、教員や学校組織も成長を感じられる機会を与えられたことに深く感謝し、今後も新聞やマスメディアを身近に感じられる人に成長して行って欲しいと思います。



〔図 1 2 新聞要約の様子③〕



〔図 1 3 大型印刷機を用いたニュース解説〕